

校 園 名： 愛知教育大学附属岡崎小学校

所在地：〒444-0072 愛知県岡崎市六供町八貫 15 番地 電話番号：(0564) 21-2237

記載日：平成 28 年 5 月 1 7 日

記載者：柴田 昌一

記載者役職：副校長

校風、おおまかな特色について

1 校訓

本気デ アレ

キマリヨクセヨ

ヤッカイニナルナ

タメニナルコトヲセヨ

校訓は、明治34年の開校時に、初代の主事、蟹江虎五郎先生によって制定されました。この校訓は、一人一人の子どもたちが質実剛健の校風の担い手として、また、地味ではありますが、将来、一人の人間として、社会生活を生き抜くことを希求したものです。

2 教育目標

- 生活のなかから問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成
- 経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成
- 友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成

3 本校の概要と校章

- 明治 34 年 4 月 15 日、愛知県第二師範学校附属小学校として開校しました。平成 28 年度は、創立 115 年目の年です。
- 創立当時は、男子は制服制帽、女子は和服に袴でした。男子の帽章に用いた校章は、初代の主事が発案し、全職員で協議をしてデザインをしました。岡崎は徳川家ゆかりの地です。校章は、三ツ葉葵の紋所を形どった中心に附属小学校の「附」の一字を置きました。三河武士の気風を受け、質実剛健の校風を樹立しました。現在もその校風を受け継いでいます。
- 教員は、三河各地区の代表で構成しています。
- 三河各地区の教育活動のよさを集約して、教育活動を行っています。

卒業生の活躍状況について

- 1 本校の卒業生の多数は、愛知教育大学附属岡崎中学校へ進学をしています。他には、愛知県内の私立中学校や地元市町村の公立中学校へ進学をする子どもがいます。
- 2 多くの卒業生が、愛知教育大学附属岡崎中学校へ進学をしているため、中学校卒業後の進路については、附属岡崎中学校に問い合わせることで把握することができます。本校の卒業生が、三河地区はもちろんのこと、愛知県、日本、世界で活躍をしています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- 1 毎年、4月にハガキによる調査を行い、4月末には現職とOBとの総会を実施しています。
- 2 ほぼ100%把握できています。その情報は、本校にあります。
- 3 愛知県、各市町村の教育現場や行政で活躍をしています。

魅力のある、特色のある、

または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

- 1 教育研究のパイロット校として
 - ・5年先、10年先を見据えた教育を展開し、公立学校へ提案をしています。
 - ・「子どもありき」の「生活教育」を提案しています。すでに、アクティブ・ラーニングについては、公立学校へ提案をしています。
 - ・5年のサイクルで研究を行っています。平成28年度は、研究4年目の年になります。
5月31日…春の授業協議会
11月15日…第67回生活教育研究協議会（研究発表会）
 - ・本校の教職員は実践で語るができるように授業論と子ども論を勉強しています。
- 2 愛知教育大学との連携
 - ・大学で研究をしている「理論」と教育現場の「実践」とを結びつける役割を目指します。
 - ・主免実習…大学3年生が、秋に3週間実習をしています。
 - ・養護実習…大学3年生が、秋に4週間実習をしています。
 - ・隣接校種実習…大学4年生が、春に2週間実習をしています。
 - ・基礎実習…大学1年生が、9月に実習をしています。
- 3 地域貢献
 - ・市町村の要請により、地域への指導のために出張をしています。
 - ・市町村の学校による要請により、校内現職研修や授業研究等の助言をしています。
 - ・市町村の要請により、市町村の論文指導や審査を担当しています。
 - ・三河教育研究会や愛知文化振興会などの教育活動に協力をしています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

- 1 地域の教育研究のモデル校であり、パイロット校である存在
 - ・地域の教育委員会や学校にとって、モデルとなる教育研究の推進に努めています。
 - ・市町村の教育委員会や学校が推進しようとしている研究のリーダーを附属学校が受け入れ、定期的に指導助言を行っています。
 - ・教育研究の成果を積極的に公開し、地域の教育への普及を行っています。
 - ・教育研究の成果を公開する際、愛知教育大学で研究をしている「理論」と教育現場の「実践」とを結びつける役割も努めたいと思っています。
- 2 県・市町村のリーダーの育成
 - ①市町村学校の教員を指導することができるリーダー教員の育成
 - ②愛知県、市町村の教育行政を担える人材の育成

3 地域の教員の研修に活用される存在

- 市町村の教育委員会や学校が行う教員研修の場として、附属学校を活用してもらえるように努めています。

4 地域の教員が身につける教育スキルの公開による存在

- 附属学校の教員がもっている教育スキルを積極的に公開し、市町村の学校の教員の教育スキルの向上に貢献するように努めています。
- 市町村の要請により、地域への指導のために出張をしています。
- 市町村の学校による要請により、校内現職研修や授業研究等の助言をしています。

5 今後、愛知県や市町村の教育委員会の教員研修センターとの連携を進める存在

- 市町村の教員の教科指導や生徒指導等の指導力向上に貢献するため、愛知県や市町村において教員研修を担当している教育委員会の教員研修センターと連携して、それぞれの教員のライフステージに応じたスキルアップを体系的に図ることができるように、研修カリキュラム開発等に貢献できるように努めています。
- 市町村の要請により、市町村の論文指導や審査を担当しています。
- 三河教育研究会や愛知文化振興会などの教育活動に協力をしています。

6 附属学校と地域の教員とが交流をする機会のある存在

- 市町村の学校の教員と交流する機会をつくっています。
- 必要に応じて、市町村や愛知県立、私立の特別支援学校や園・中学校・高等学校など、異なる学校種の教員と交流する機会をつくるように努めていきたいと思えます。

7 教員以外の人材の育成への貢献存在

- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、教員以外にも学校に必要な人材があります。その人材育成のための実習の場を提供するように努めています。

8 平成 27 年 8 月 26 日に教育課程企画特別部会より発表された「論点整理」にある内容を精査し、必要に応じて研究し、地域の学校のリーダー・パイロット校としての存在に努めること

- 2030 年の社会と子どもたちの未来の研究を視野にいれる
- 新しい学習指導要領等が目指す姿にかかわる研究を視野にいれる
- 学習評価の在り方にかかわる研究を視野にいれる
- 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策にかかわる研究を視野にいれる
- 外国語活動、特別支援教育、ICT 能力育成、初等中等教育政策などにかかわる研究の推進
- 特別支援学校と小学校・中学校との共生教育にかかわる研究の推進

9 キャリア教育の推進の存在

- 子どもたちが勤労観、職業観を身に付け、主体的に自己の進路を選択・決定し、社会人・職業人として自立していくことのできる資質を養うキャリア教育の研究を視野にいれる

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

1 中長期の存在意義

- ・自由で自立した子どもたちの人格の育成と社会的責任の自覚を養う教育を推進していること
- ・子どもたちの多様な能力に対応した教育を行うとともに、個性を尊重しつつ学力の向上を図っていること
- ・愛知教育大学と連携し、子ども一人一人の個性と生活経験を大切にした「生活教育」についての教育研究を行っていること
- ・安全で安心な教育環境を整備し、安全・健康教育を進めていること
- ・国立大学法人附属学校として、大学と連携した学校マネジメントを推進していること
- ・機能的な学校運営を行うとともに、教職員の職能向上に努めていること
- ・開かれた学校づくりを進めていること
- ・学校の様子や状況について、家庭や地域に積極的に情報提供し、学校評価を学校運営に生かしていること

2 短期の存在意義

(1) 学習指導

- ・子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っていること。
- ・各教科・くすのき学習で位置づけた育みたい子どもの力を培う授業展開を図っていること
- ・他者とのかかわりやつながりのなかで自らの問題を解決し、互いに高め合える子どもの姿を目指して教育を進めていること
- ・コンピュータなどの情報機器の有効な活用方法を探るとともに、様々な情報を取捨選択し、総合的・的確な判断のなかで、情報活用できる能力を子どもに育成していること
- ・「食」をはじめとした自分自身の生活への関心を高め、健康で安全な生活を実践できる子どもの姿を目指していること

(2) 研究

- ・「自らの意思で判断・決定していく子ども」を研究主題に掲げ、判断・決定につながる子どもたちの「自覚」に着目し、子どもたちが見通しをもって追究を進めていくための具体的な教師支援のあり方を探っていること
- ・問題解決的な学習を展開するなかで、子どもの問題意識を大切にし、多面的かつ総合的なものの見方や考え方、感じ方を育む授業あり方を探っていること
- ・愛知教育大学と連携し、通常の学級における特別支援教育や教育相談の体制整備を図り、支援のあり方を探っていること
- ・道徳・英語の教科化を視野に入れ、子どもの生活にもとづく実践的な道徳・英語の授業のあり方を探っていること

(3) 教育実習

- ・教育実習生に対し、教育活動の基本的なあり方を具体的な実践を通して指導し、未来の教育を担う人材の育成に貢献していること

(4) 学校運営

- ・行事の精選・効率化の推進とタイムマネジメント意識の高揚により、勤務時間への短縮に努め、教職員の健康維持を図ることを積極的に行い、地域の学校にタイムマネジメントにおいてもリーダー的な存在になること